

Economic Indicators

発表日: 2021 年 4 月 19 日(月)

貿易統計(2021 年 3 月)

～増勢は前期比で鈍化も、輸出は増加基調を維持。先行きは半導体不足が下振れリスクに～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
				輸出金額	輸入金額			アメリカ	EU	アジア			アメリカ	EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
20年	4月	▲ 9,369	▲ 9,821	▲ 21.9	▲ 7.0	▲ 21.3	▲ 36.9	▲ 27.6	▲ 11.8	1.7	4.1	▲ 0.2	6.0		
	5月	▲ 8,568	▲ 8,496	▲ 28.3	▲ 25.9	▲ 27.2	▲ 49.4	▲ 34.8	▲ 11.4	▲ 14.4	▲ 22.8	▲ 25.9	▲ 8.5		
	6月	▲ 2,909	▲ 5,952	▲ 26.2	▲ 14.1	▲ 26.9	▲ 47.0	▲ 33.2	▲ 17.7	▲ 0.6	▲ 12.6	▲ 6.2	0.4		
	7月	▲ 148	139	▲ 19.2	▲ 22.0	▲ 21.9	▲ 21.5	▲ 36.9	▲ 11.3	▲ 13.8	▲ 28.0	▲ 12.6	▲ 10.6		
	8月	2,280	2,423	▲ 14.8	▲ 20.4	▲ 14.8	▲ 20.1	▲ 27.5	▲ 7.3	▲ 11.3	▲ 22.3	▲ 15.1	▲ 7.2		
	9月	6,674	5,624	▲ 4.9	▲ 17.1	▲ 7.7	▲ 6.1	▲ 23.3	▲ 3.7	▲ 8.1	▲ 16.5	▲ 3.3	▲ 7.4		
	10月	8,582	5,790	▲ 0.2	▲ 13.1	▲ 1.6	0.8	▲ 10.9	2.8	▲ 5.5	▲ 21.4	▲ 8.3	▲ 2.4		
	11月	3,558	6,477	▲ 4.2	▲ 11.0	▲ 3.9	▲ 2.6	▲ 9.8	▲ 4.5	▲ 2.1	▲ 19.3	▲ 12.9	4.6		
	12月	7,447	7,704	2.0	▲ 11.5	▲ 0.1	▲ 3.4	▲ 18.4	5.2	▲ 2.0	▲ 22.7	▲ 0.9	2.0		
21年	1月	▲ 3,272	6,092	6.4	▲ 9.5	5.3	▲ 8.7	▲ 26.1	18.4	▲ 4.1	▲ 10.6	▲ 10.9	▲ 2.8		
	2月	2,159	▲ 110	▲ 4.5	11.8	▲ 4.3	▲ 16.4	▲ 23.9	▲ 0.3	22.0	▲ 8.0	1.7	43.8		
	3月	6,637	2,978	16.1	5.7	12.6	3.9	▲ 6.9	20.4	3.9	▲ 0.8	9.1	8.5		

(出所) 財務省「貿易統計」、前年比(%)

〇1-3 月期は輸出入ともに前期比で増加。輸出の増勢は鈍化も、アジア向けを中心に堅調に推移

財務省より発表された 3 月の貿易統計によると、貿易収支は 6,637 億円の黒字（コンセンサス：4,932 億円の黒字、レンジ：2,985 億円の黒字～10,563 億円の黒字）となり、コンセンサスを上回る結果となった。輸出金額は前年比+16.1%（コンセンサス：同+11.4%、レンジ：同+8.3%～同+17.2%）、輸入金額は同+5.7%（コンセンサス：同+4.7%、レンジ：同▲1.0%～同+7.6%）となった。昨年に新型コロナウイルス感染拡大の影響で下振れていたことの裏が出たことで、輸出入ともに前年比で大幅なプラスとなった。20 年春は世界的なロックダウンの影響などで輸出入ともに大きく下振れていたため、4 月以降も前年比で高い伸びが続くとみられる。

品目別にみると、輸出については昨年落ち込んでいた裏が出たことで、自動車（同+11.2%）、非鉄金属（同+38.9%）、プラスチック（同+23.7%）など幅広い品目が前年を上回った。輸入については、鉄鉱石（同+57.0%）、PC 等の電算機類（含周辺機器、同+21.9%）などが高い伸びとなったほか、ワクチンが含まれる医薬品（同+27.3%）などが増加に寄与した。一方、原油（同▲18.4%）や液化天然ガス（同▲22.8%）などがマイナスに寄与している。

季節調整値でみると、輸出金額は前月比+4.3%と増加した一方、輸入金額は同▲0.7%と小幅に減少したことで、貿易収支は+2,978 億円の黒字と 2 か月ぶりの黒字となった。また、四半期でみると、輸出が前期比+3.3%、輸入が同+10.2%と、輸出入ともに前期比で増加が続いた。輸出の増加ペースは 20 年 10-12 月期から鈍化したものの、水準は新型コロナ前の 2019 年 10-12 月期を上回っている。

○20 年度は新型コロナの影響で輸出入ともに前年度比で大幅に下振れ

同時に公表された 2020 年度分の貿易統計によると、輸出は前年度比▲8.4%、輸入は同▲11.6%と、輸出入ともに大幅な減少となった。輸出については、自動車（同▲19.0%）、自動車の部分品（同▲16.2%）など幅広い品目が 19 年度から大幅に減少した。一方で、中国向けを中心に非鉄金属（同+19.2%）、プラスチック（同+4.7%）などが増加したほか、世界的な半導体需要の高まりを受け半導体等製造装置（同+10.5%）、半導体等電子部品（同+1.1%）がプラスとなっている。輸入については、商品市況の悪化などを受け、原粗油（同▲49.2%）、液化天然ガス（同▲23.1%）などが減少に大きく寄与した。一方で、マスク等の織物用糸・繊維製品（同+37.4%）が前年度比大幅なプラスとなったほか、テレワーク需要で PC 等の電算機類（含周辺機器、同+19.1%）、通信機（同+9.7%）などが前年度を上回った。

また、国・地域別に輸出をみると、米国向けが同▲16.5%、EU 向けが同▲12.5%など幅広い国・地域向けの輸出が 19 年度から減少となった一方で、いち早く感染拡大を収束させた中国（同+9.6%）、台湾（同+2.7%）向けは増加した。新型コロナウイルス感染拡大が続いたことで、20 年度は輸出は下振れたなか、中国向けの輸出が全体を下支えした。

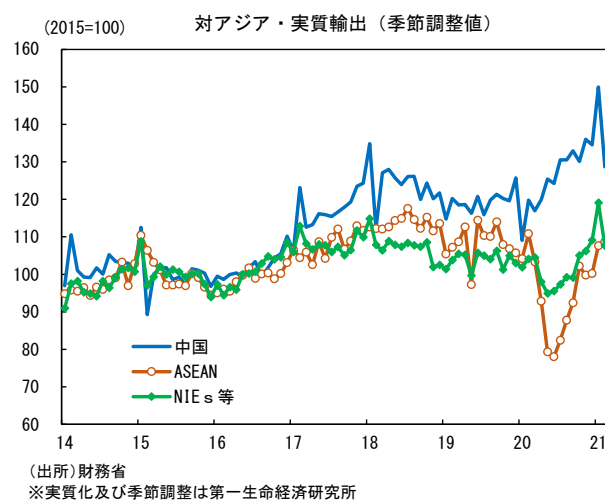
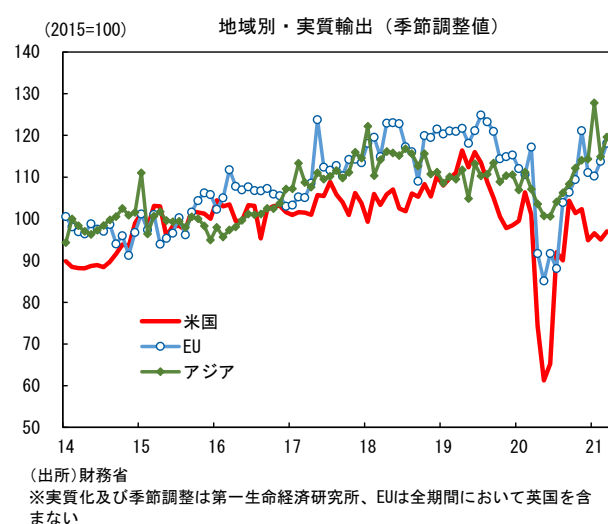
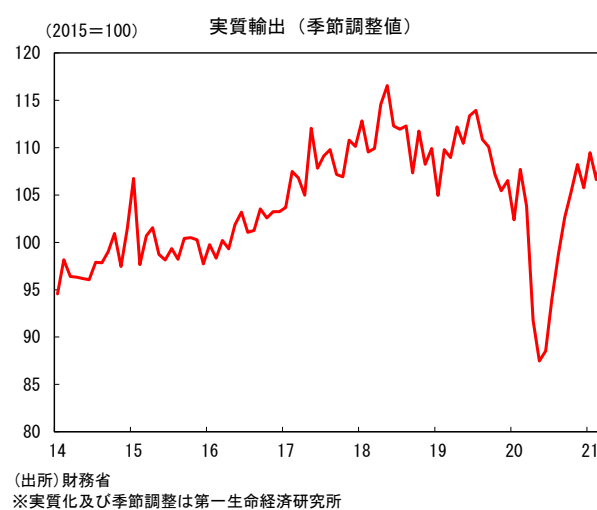
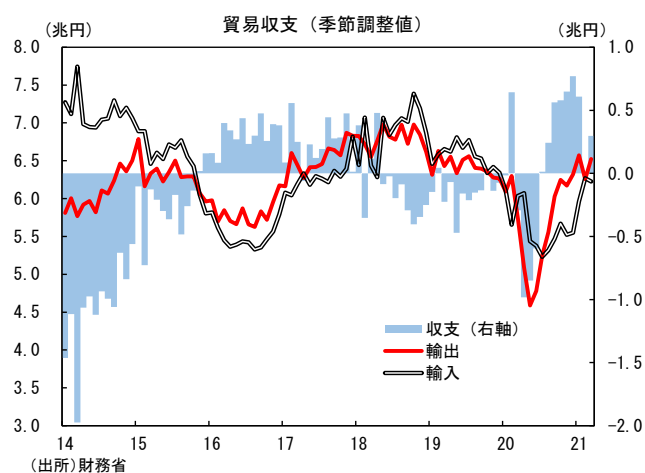
○3 月の実質輸出は前月比+3.0%と増加、中国向けを中心にアジア向けが堅調に推移

為替などの価格変動の影響を除いた 3 月の実質輸出（実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）は、前月比+3.0%（2 月：同▲2.6%）と 2 月から増加に転じた。品目別にみると、一般機械が同+4.5%、輸送用機器が同+4.8%、電気機器が同+0.1%など、幅広い品目が 2 月から増加に転じた。また、国、地域別にみると、米国向けが同+2.1%、EU 向けが+3.8%、アジア向けが同+4.1%と増加した。また、中国向けが同+12.2%と春節の時期のずれの影響から大きく下振れた 2 月から回復、高水準の結果となった。

四半期でみると、実質輸出は前期比+2.1%と 3 四半期連続の増加となった。米国向けが同▲3.3%と減少に転じた一方、アジア向けが同+6.4%と高い伸びとなるなど、足もとではアジア向けが輸出をけん引している。また、品目別でみると、20 年末にかけて自動車等の輸送用機器が同▲2.1%と増勢が一服した一方、一般機械が同+5.3%、電気機器が同+7.6%が高い伸びとなるなど、足もとでは資本財関連の輸出がけん引役となっている。

○中国向けを中心に輸出の底堅い推移が続く見通しも、半導体不足がリスクに

先行きについては、各国でワクチンの接種が進んでいることや、世界的に製造業が好調を維持していることなどから、中国向け、米国向けを中心に今後も輸出の底堅い推移は続く見通しである。一方、リスクとしては、引き続き新型コロナウイルスの感染動向がリスクとなるほか、自動車メーカーを中心とした半導体不足の影響があげられる。20 年夏以降の挽回生産により車載向けを中心に世界的に半導体が不足するなか、3 月には国内大手半導体メーカーの工場の火災により供給状況はさらに悪化している。一部自動車メーカーが減産に動いたほか、影響は長期化するとの見方もあり、先行きの輸出を下押しする可能性が高い。資本財を中心に今後も輸出は底堅い推移が続くとみられるも、不透明感は強い状況だ。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

